

日本教職員バドミントン連盟創立 60 周年にあたり、役員先輩から寄稿いただきました。

## JEF創立60周年に思う

日本教職員バドミントン連盟

顧問 小泉 伸坦

JEF（日本教職員バドミントン連盟）誕生の際に最も貢献された方は今井先（はじめ）先生であると感じ、過去の40周年のあゆみ（里見光徳氏）や特別座談会（出席者は平田登志郎、池田昌道、小泉直坦、小泉伸坦、龍井昇治、前田耕作、稲石一雄、高橋英夫）の内容と重なることになるが書き留めておく。

1955年（昭和30年）に私が大学卒業した年に、平田先生から練習会の誘いがあり、聖学院高校に出向いた。そこには英語教師でバドミントン部顧問の今井先生、助手に諸田みや子氏（秋元）がおられた。その時の参加者は平田登志郎氏、里見光徳氏、柳田直規氏、磯野晏雄氏（故）、大塚直氏、佐野美代子氏と私であった。

毎週土曜日の練習後、近くの寿司屋で酒を酌み交わしながら議論に熱中した。話題はほとんどバドミントンのことで、バドミントン発祥の地イギリスのこと、世界のバドミントン界、バドミントンのルールや試合のことであった。

当時我々はプレーのみに熱中していた。今井先生は「プレーだけやっていると駄目で、マネジメントやルールを正確に理解し、バドミントン競技に流れている精神を汲み取らなければいけない」とよく言われていた。考えてみると今井先生に我々は育てられたのであった。

我々教職員の仲間はBFC（Bird Friends' Club）として活動していたが、JEFという全国組織を作る上で、東京以外の道府県で熱心に活動している教職員の方々に会って、協力して頂く必要があった。今井先生が過去に設立に貢献した団体は日本協会（1946年・昭和21年）、東京都協会（1947年・昭和22年）、都教職員連盟（1955年・昭和30年）などがあった。

今井先生と共に昭和31年から33年にかけて、夏休みを利用して2週間ほど各地を転戦し、協力を求めた。その地は仙台、室蘭、富川、札幌、岡山、四国、熊本、新潟の各地である。

その後、今井先生は日本バドミントン協会（日バ）の役員として、日バでJEFの設立に熱意をもって説得していた。特に日バの新理事長の森友徳兵衛氏の協力もあり、昭和36年（1961）9月30日に日バの総会で承認され、JEFが誕生したのである。会長に栗本義彦氏（日本体育大学学長）、初代理事長に平田登志郎氏（文京第二中学校教諭）が就任した。

最後に今井先生の長男である清兼氏の手記（2001年・平成13年）から、今井先生について読み取れることを記しておく。奥様や3人の子供達との絆を捨てて、家を飛び出し別居したことで、60年にも亘る長い間バドミントンに情熱を燃やし続け、日本女子を世界一（ユーパー杯優勝監督）にのし上げ、心残りなく82歳の生涯を閉じることができた、と語っている。

# 日本教職員バドミントン連盟（JEF）創立60周年 おめでとうございます

日本教職員バドミントン連盟元理事  
東京都教職員バドミントン連盟副会長  
本間 研一

わたしは30歳過ぎてから教員になりましたので、JEF発足にはかかわっておりませんが、JEFNEWSには創刊号からかかわって来ました。日女体体育館での練習会が終了した後、今井先先生のご自宅に伺って発足時の役員の皆様と初めての機関誌をどういう体裁にするか、内容をどうするかなど侃々諤々やりました。文科系だったせいも、選ばれて諸先輩と一緒に創刊号を発刊しました。今井先先生のご指導をいただきながら私が編集長としてまとめました。大会の優勝者を表紙に試合の様子を記事に載せるということで、写真は全くの初心者の私がとりました。参加くださる各県にJEF NEWSを送るについても予算が不十分で、発送の費用・手間を省くために若手の金子先生（現 山梨県在住）と私が大きな荷物にして大会会場まで運び、各県に配布しました。何年か後には郵送料が出るようになったので、今度は近所の郵便局に大量に郵送をお願いすることになり、毎年のことなので局員さんとも仲良くなったりしました。創刊号からかかわったJEF NEWSが定着して皆様にご愛読いただけているようで、大変うれしく思っています。

最近、バドミントン競技が、優秀な日本人選手の活躍で多くの方に認知され、活性化していることをうれしく思っています。私も競技に携わる一員として競技のさらなる発展と競技力向上のために微力を尽くそうと思っています。

具体的には底辺の拡充のために、高校生の指導をしています。練馬区のS高校は新入部員が男女で35名、全体で50名を超えます。品川区のY高校では15名の新入部員と2・3年生とで25名程度を指導しています。また、家庭婦人のサークルにも参加して、バドミントン競技の楽しさを広めています。プレーヤーとしての実績はあまりありませんが、指導者として都立高校2校で、関東大会6回・インターハイ5回出場を果たしました。そのうちの女子は全国選抜大会でベスト8に入り、日本バドミントン協会開催のジュニア強化合宿に一ヶ月学校を離れて参加しました。その間合宿所へ課題を運んだりして、家庭と連絡を取ったり大変でした。新宿山吹高校では、昼間働きながら夜間の部活動に頑張る定時制通信制生徒による大会への全国大会出場を果たし、外国からの帰国子女を指導しました。

南葛飾高校では聴覚に障害のある生徒を指導しました。卒業後にデフリンピック大会に出場し、オーストラリア大会で韓国選手と決勝で戦い、惜しくも準優勝でした。現在もその選手が私の指導している2校で模範を示してくれています。

「SDGs」の重要性が言われていますが、バドミントン競技がさらに人々に愛好され差別・選別のない、競技力だけでなく善さを広げていきたいと思っています。今後ともさらに日本教職員バドミントン連盟が発展していくことを期待いたします。